

文系理系人材協働で

理系と文系の重なる領域。そんなことが気になるようになったのは大学の専攻が心理学だったからだろう。日本では文学部に属することが多いが欧米では理系に分類される。私が文系へ進学した理由は、物理や化学が不得意だったという消去法からだ。入学後、理系の友人の研究話などを聞いてみると物理や化学にとっても興味を持てたし、早く知っていればと悔しくも思った。この経験から、未来を担う子どもたちには簡単に理系の道を捨てないでほしいと思っ

凛としていきる

理系女性の挑戦

未来担う子どもに科学の魅力を

て、子どもたちが理系の研究者と直接出会えるジュニアサイエンスカフェをNPOとして開催するようになった。

私は準備の中でもストーリーを考える時間がとても好きだ。例えば



ば宇宙航空研究開発機構の研究者を招き、月をテーマにした際も、研究者とストーリーを十分に練った。身近なようで身近でない月に

ついて、どう仕掛ければ参加者が身近なものと感じられるか知恵を出し合う。

結果、参加者には月面を移動する乗り物を設計してもらおうという課題を課すことにした。設計するためにはレゴリスを模した実験

月面の環境を学ばなくてはならない。当日は、レゴリス（月面の砂）に見立てた小麦粉の上を移動する様々な模型を、大人も子ども

も好奇心いっぱい顔で覗き込んだ。学ぶのではなく、「設計」という作業を通すことで

現在私は東京大学大学院工学系研究科にも所属しているが、工学部共通講義として大学生が小中学生向けに科学の授業を作り実践する「工学理解促進プロジェクト」というセミナー

を支援している。科学的知識は工学部生にはかなわないが、整合性のとれたストーリーが組み上がるよう助言するのは私の得意分野だ。大学生への教育的効果についても研究しており、今の仕事もまた理系と文系の重なる領域にある。

文系に軸足を置きつつ理系の世界を垣間見られる今の仕事は自分の天職だと思う。複雑化した社会の課題を、文系、理系と区別することは難しい。今後は文系的センスを磨く努力を続けつつも理系的センスを吸収し、文系人材、理系人材協働で課題に立ち向かって行

きたいと考えている。企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

▽

NPO法人センス・オブ・ワンダー代表

中牟田 宴子



〈プロフィール〉九州大学卒業後、システムエンジニアとしてシステムの設計を担当。育児期間を経て認知心理学を基に算数教室を企画運営。NPO法人センス・オブ・ワンダー代表。東京大学大学院工学系研究科で工学教育を支援。